

## 中国の大学における「通識教育」モデルに関する研究

史, 媛媛

九州大学大学院 : 博士後期課程

<https://doi.org/10.15017/1518490>

---

出版情報 : 飛梅論集. 15, pp.73-85, 2015-03-31. 九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻教育学  
コース  
バージョン :  
権利関係 :

# 中国の大学における「通識教育」モデルに関する研究

史 媛 媛\*

## 1. はじめに

### (1) 「通識教育」とは何か

本稿で検討の対象となる中国の「通識教育」(tong shi jiao yu)は、米国の general education や liberal education、また日本の「一般教育」や「教養教育」に対応するものであり、非専門分野で学び、幅広く知識やスキルを身につけることを重視している。この「通」(tong)の意味は「総合連接」であり、「識」(shi)の意味は「知識」である<sup>(1)</sup>。李(1999)は、「通識教育」という用語について、性質、目的と内容という3つの視点からその概念を次のように定義している<sup>(2)</sup>。即ち、「通識教育」とは、性質の観点からは、高等教育の必要な部分として、すべての学生に対して行われる非専門教育であり、目的の観点からは、社会的責任を身につけ、積極的に社会活動に参加し、全面的に発展した人および国民を育成することを目的とした教育であり、内容の観点からは、幅広く非専門的で非実用的な知識・技能・態度を学ぶ教育である。ゆえに、本論では李の概念を踏まえ、通識教育を高等教育の必要な部分であり、専門教育に対比され、様々な学問領域を幅広く学ぶための教育と定義している。

### (2) 先行研究の検討

まず、中国の教養教育の研究について、これまでの先行研究では、楊(2006)、陳(2003)、黄(2010)、史(2013)は、現在中国の大学の教養教育改革の必要性和重要性が検討されている。楊(2006)は歴史的な視点から、中国の高等教育の変容を解明し、市場経済に対応するための教養教育の役割が検討されている<sup>(3)</sup>。また、陳(2003)は、1990年代以降の中国における学士課程カリキュラムの改革において、従来の専門教育への批判から現在の大学の教養教育の復興を提言した<sup>(4)</sup>。そして、黄(2010)は中国の大学教育の本源に回帰するため、人生、知識、カリキュラム、授業の四者間の内在的なつながりとロジックの関係から、大学の教養教育重視に内在する要因を論じている<sup>(5)</sup>。史(2013)は、今日の世界大学教育改革の動向、中国政府の政策および社会や企業からの大学教育への要求に応え、新しい人材モデルの模索と教養教育改革の必要性を論じている<sup>(6)</sup>。

また、中国の大学の教養教育についての研究アプローチの考察では、主に事例研究として、教養

---

\*九州大学大学院博士後期課程

教育のカリキュラム、担当教員と評価が考察されている。例えば、楊（2012）は中国の3つの大学の例を取り上げて、各大学の規模、人材養成目標、学科構成などの特性が各大学の教養教育カリキュラムに与える影響を分析し、教養教育導入後にはその教養教育科目を担当する教員の配置にも影響があることを明らかにしている<sup>(7)</sup>。しかしながら、大学カリキュラムに焦点化したために、カリキュラム経営に関わる組織面からの検討が不十分である。また、Chen（2011）は、北京大学の「元培計画」(Yuanpei Program)を事例として、北京大学の教養教育改革の内容と結果を分析し、北京大学と中国の大学における教養教育改革への挑戦と施策の提言を示している<sup>(8)</sup>。北京大学以外にも、Zhang（2012）は、中国人民大学の事例を通して、教養教育の評価について、教員と学生の教養教育に対する態度が強くポジティブであることを示している<sup>(9)</sup>。

さらに、国際比較の視点から教養教育に関する先行研究について見てみると、一般教育学会（1997）<sup>(10)</sup>、名古屋大学高等教育研究センター（2006）<sup>(11)</sup>、有本（2003）<sup>(12)</sup>、吉田（1999・2005）<sup>(13)</sup>、鳥居（2006）<sup>(14)</sup>、深野（2008）<sup>(15)</sup>、江原（2010）<sup>(16)</sup>などは、欧米を中心に、特にアメリカの教養教育カリキュラムの検討が多い。こうした傾向の中、アジア諸国の教養教育の問題の論考について、大塚（2004）は近年の中国高等教育改革として、「通識教育」と呼ばれる教養教育の充実が図られていることを指摘している<sup>(17)</sup>。以上のような先行研究の中では、中国の通識教育について個別の大学事例が論及されているが、大学教養教育の特徴や軸を抽出したうえで、中国全体を見渡した、類型論からの検討は未だ不十分であるように筆者は考える。

### (3) 研究目的

前述した先行研究の分析を踏まえ、本稿では、中国の大学の通識教育改革の実態はどうであるのか、またはどのようなモデルとしてその通識教育改革が推進されているのかという2つの課題にまず取り組む必要がある。すなわち、本稿では、中国の北京大学、中山大学と西安交通大学の事例を取り上げることで、3つの大学の「通識教育」に関連する新たな学院や書院の比較分析により、これらの共通点と相違点を検討し、教養教育の特徴や軸を抽出したうえでその類型論から中国の大学の通識教育改革のモデルを明らかにすることを目的とする。本研究の通識教育の6モデルを分類したことは、中国の大学の通識教育の全体像の分析にとって、不可欠であると考え。また、本研究により、現在と将来の大学の通識教育改革のやり方と方向性へ示唆を得ることができると考える。

### (4) 研究方法

本研究では、中国の大学における通識教育モデルを明らかにするために、中国の大学の通識教育の実践を考察する前に、米国の一般教育モデルの理念を踏まえ整理することが必要であると考え。その理由は、1990年代から中国の大学通識教育の改革は、主に米国の一般教育・教養教育の理念と制度から模倣しているといえるからである。Chen（2011）によれば、2000年9月に、北京大学は、米国のコア・カリキュラムモデルを模倣した「通識教育課程」を開設し、学士課程段階で教養教育を実施する試みを始めた<sup>(18)</sup>。2007年には同じく北京大学で最初の非専門の学部である「元培学院」

が正式に創設されている。また、熊（2010）は、通識教育の理念と実践の観点から、事例研究を通じて、中国大陸および台湾の大学における通識教育改革の実態を考察し、今日の中国の大学の通識教育改革は米国の大学から学んだものであることを指摘した<sup>(19)</sup>。本論では熊の事例研究を参考にしながら、新たに三つの代表事例を取り上げて分析し、類型化を行う。まず、はじめに、中国の通識教育のモデルとなった米国の大学での一般教育のモデルは何かを先に整理する。

## 2. 米国の一般教育モデルの理念

本節では、中国が模範とした米国の大学の一般教育の理論は、今日の中国の大学における通識教育改革を考察する際の分析軸の基礎となっていると考える。以下、米国の一般教育のモデルを整理していく。

まず、扇谷（1962）は、歴史的な視点から、1940年代の代表として、既出のハーバード大学報告書「自由における一般教育（1945）」と、60年代の代表としてダニエル・ベルが著した「一般教育の改造—全米的状況におけるコロンビア・カレッジの経験」（1966）に基づき、アメリカの大学における一般教育の思想を、「理性主義」、「新人文主義」と「道具主義」という3つの類型に分類した<sup>(20)</sup>。また、一般教育学会（1997）は、哲学的立場から、米国の一般教育モデルを検討し、①「理性主義」の「リベラル・アーツ、古典・名著講読」モデル、②「新人文主義」の「総合コース、コア・カリキュラム」と、③「道具主義」の「問題解決学習」という3類型を明示している<sup>(21)</sup>。

そして、清水（1980）は、米国の大学史の視点から、ハーバードのコナント報告書やハーバード大学とコロンビア大学の改革内容を考察したうえで、米国流一般教育の3類型をまとめている<sup>(22)</sup>。すなわち第一は「集中・分散」であり、1909年ハーバード大学で定型化され、アメリカの大学に広がった。ここで言う集中は専攻、専門のことを指し、分散は教養科目と選択科目を指すものと考えられる。第二は「コア・カリキュラム」であり、1919年コロンビア大学の総合コース「現代文明」に始まり、1945年ハーバード大学改革構想として実現したものである。第三は「生活体験」であり、デューイの教育哲学を受け継ぎ、学生の生活体験を重視している。

こうした議論を更に具体化し、Robert Newton（2000）は、歴史的な視点ではなく、一般教育改革の実践に関わる4つの主要な要素、つまり「知識」、「学習」、「教員」と「教育内容」の枠組みに基づき、アメリカの各大学の一般教育モデルを3類型としてまとめている<sup>(23)</sup>。第1は、「古典名著モデル」であり、理想主義の哲学的立場から、教養教育の理論とは、古代ギリシア源流のリベラル教育を持ち、理想的人間を目指し、リベラル・アーツや古典・名著講読という教育方法である。第2は、「学術ディシプリンモデル」であり、学生は各領域の学問を中心に、それらの主要な理論、概念や方法論などを学ぶ教育アプローチである。第3は「効果的な市民モデル」であり、デューイの進歩主義の観点から学生の生活体験を重視し、将来効果的な市民となるために必要なスキルと知識を学ぶという教育方式である。

本研究では、上述した扇谷（1975）、一般教育学会（1997）、清水（1980）、Robert Newton（2000）

の米国一般教育のモデルの類型内容を比較・対照し、特に各研究者が分類した教育哲学の立場を中心に分析してみたい。まず、扇谷（1975）の「理性主義」は、一般教育学会（1997）の理性主義の「リベラル・アーツ、古典・名著講読」モデル、そして清水（1980）の「集中・分散」と Robert Newton（2000）の理想主義の「古典名著モデル」が、理性主義という教育哲学の面が共通し、古典・名著講読のような教育方式が採用されていることが分かる。また、同じように、扇谷（1975）の「新人文主義」と対照し、一般教育学会（1997）の新人文主義の「総合コース、コア・カリキュラム」、また清水（1980）の「コア・カリキュラム」、そして Robert Newton（2000）の「学術ディシプリンモデル」が、各学問領域の主要な理論、概念などを重視する総合コース、コア・カリキュラムの教育立場を持つという点で同じであろう。最後に、扇谷（1975）の「道具主義」と比較し、一般教育学会（1997）の「道具主義」の「問題解決学習」、清水（1980）の「生活体験」と Robert Newton（2000）の「効果的な市民モデル」は、ほぼ同じようにデューイの進歩主義を基礎として、学生の生活の体験や現実の問題の解決という教育思想や教育方法が重視されていることがいえる。

これらを踏まえて、米国の一般教育モデルを「古典名著モデル」（理性主義）、「コア・カリキュラムモデル」（新人主義）と「生活体験モデル」（進歩主義）という3類型にまとめることができる。

### 3. 事例大学に基づく通識教育モデルの検討

本節では、北京大学、中山大学と西安交通大学の3つの大学の事例研究を取り上げ、特に通識教育に関連する「教育課程」と「学生の規模」という2つの項目から、それぞれの大学の通識教育カリキュラムの考察をしたうえで、中国の大学の通識教育モデルを検討していく。なぜ通識教育の「教育課程」と「学生の規模」という2つの項目を分析軸として抽出するかについて、前述した先行研究では米国の一般教育モデルを検討した際に、「教育課程」という要素が大事な基準であることがわかる。そこで、本研究では米国の一般教育を模倣した中国の通識教育のモデルを検討する際に、同じく「教育課程」という分析軸を抽出する。教育課程の具体的分析項目には科目内容の特徴と単位数を取り上げる。加えて、中国の通識教育改革の実際からみれば、多くの大学では実験段階として、一部の学生を対象とした通識教育改革を推進していることから、「学生の規模」という項目が現在の中国の通識教育のモデルを分析する際に、大切な分析軸であると考えられる。エリート教育として集約的に実施されるのか、もしくは、全学的な科目として提供されるものなのかという区別にも関わっているためである。

#### (1) 北京大学元培学院の事例

北京大学の前身の京師大学堂は、1898年に清朝政府により、北京に設立された。そして、1912年に、現在の北京大学へと改称した。北京大学は中国の重点大学の中でも最上位に位置する総合大学である。近年、北京大学では、3つの新たな改革、即ち通識教育の改革、元培学院とその学生募集方法の変更、学部生に対する研究能力の向上が推進されている。2012年、北京大学に在籍する学生数

は35,915名であり、そのうち、学部生14,116名、修士課程13,665名、博士課程8,134名となっている。

北京大学の通識教育改革の構成には、通識教育課程の開発と通識教育の理念を持つ革新された元培学院の成立という2つの面を含んでいる。この元培学院において、2001年9月に元培計画管理委員会が組織され、この委員会が責任を負う形で大学全体の本科教育の改革が推進された。同時に、元培執行委員と実験班が組織され、人材育成モデルの探求と実践が展開されることになった。2007年には最初の非専門学部である元培学院が正式に創設され、北京大学の本科教育改革が新しい段階に入ったと言われている。以下では、教育課程と学生の規模という2つの面からその元培学院の特徴を明らかにする。

### ① 教育課程

元培学院の学生は、1年前期の始まりから2年前期の終わりまで、専攻を区分せず、基礎知識を学んでいる。この基礎知識の学習方式は、北京大学の他の学部生と同様に、A領域「数学・自然科学」、B領域「社会科学」、C領域「哲学と心理学」、D領域「歴史学」、E領域「言語学・文学・芸術学」とF領域「持続的な社会発展」という6領域から12単位の全学選択通識課程を履修することである<sup>(24)</sup>(表1)。この「通識選択科目」の履修単位数について、学生は卒業するまでの4年間のうちに、12単位を履修することが規定されている。また、この「通識選択科目」の導入について、2001年9月に、米国ハーバード大学の「コア・カリキュラム」モデルを模倣し、全学選択履修科目として導入された。

また、元培学院は北京大学では最初の非専門の学院として、その特色は以下の2点が挙げられる。第1に、学生はすべての専攻から選択し、知識構築、興味と能力をバランスよく学習できること。第2に、2007年からの学際的な分野が設定され、即ち、「古生物学」(生命科学、地球科学及び環境科学を含む学際的な学問)、「政治学・経済学・哲学」(政治学、経済学及び哲学から成る学際的な学問)、「外国語・外国史」(外国語学と歴史学から成る学際的な学問)という3つの学際的な分野がデザインされていること。

### ② 学生の規模

元培学院では、毎年80～150名の学生を募集している。2001年から2013年における12年間の総計で募集された学生数は1,809人となった。2012年に卒業生は209人、そのうちの171人は国内外の名門大学と研究機構へ進学している。また、学生は寮においても文理問わず混合配置され、異なる専門の学友間の交流と学習の機会が与えられている。

表1 北京大学の通識選択課程 (2011)

北京大学の通識選択課程 (2011)	
科 目	単位数
A 数学・自然科学	2
B 社会科学	2
C 哲学と心理学	2
D 歴史学	2
E 言語学・文学・芸術学	2
F 持続的な社会発展	2
合 計	12

出典：北京大学教務部は2011年に公布された「北京大学通識選択科目総目録」資料に基づき筆者作成。

北京大学元培学院副院長の盧氏へのインタビュー調査によれば、2013年度現在、法律系の学生である A さんは選択科目であるアラビア語を聴講しているが、入学当初 A さんは法律を勉強していたものの、その2年後、元培学院に報告書を提出し、「私は法律に興味を持っていません。その理由は法律には法的規定や条例ばかりですが、アラビア語を学んでいるときは非常に面白くて素晴らしいと感じています」と述べた。そして、元培学院の教員らは外国語学院の教員らと交渉した後、A さんは法律キャリアを諦め、アラビア語の専攻に転学した。その後、A さんは学部1年生の学生と一緒にアラビア語の基礎科目を学ぶこととなった。以上の学生 A さんの例から見れば、元培学院は「自由に専攻および科目を選択すること、柔軟な卒業年限を提供すること」などの特徴は小規模であることから可能になっていることがわかる。

学生数の面からみれば、元培学院において、すべての学生を対象とせずに、少人数の学生を対象として、実験的にエリート教育の方式を採用していると特徴づけられる。

## (2) 中山大学博雅学院の事例

中山大学において通識教育改革を推進するため、2009年に博雅学院が成立した。以下では、現地で入手したデータに基づき、教育課程と学生の側面からその博雅学院の特徴や位置づけを明らかにする。

### ① 教育課程

博雅学院の課程内容については、学生は古代中国、古代ギリシャ語、ラテン語、英語、中国文明と西洋文明のコースを履修することが必要である。4年間で学部生に対して、西洋文明とその伝統の古典における幅広い知識を教えている。具体的な授業コースは、以下の表2の通りである。

表2 博雅学院2010学年第1学期授業時間割

	月	火	水	木	金
1 (8:00-8:45)			ギリシャ語		
2 (8:55-9:40)	ギリシャ語				
3 (9:50-10:35)					
4 (10:45-11:30)	ダンテ『神曲』	古文書	ラテン語	ダンテ『神曲』	ギリシャ語
5 (11:40-12:25)					
6 (12:35-13:20)					
7 (13:30-14:15)					
8 (14:25-15:10)					
9 (15:20-16:05)	プラトン	映画と後現代	英語	宋詞宋詩と宋の社会	体育
10 (16:15-17:00)				English Idea of China	
11 (17:10-17:55)					

出典：博雅学院2010学年第1学期授業時間割に基づき筆者作成。

この時間割から見れば、博雅学院の学生は古代中国、古代ギリシャ語、ラテン語、英語、中国文明と西洋文明のコースを履修すべきであることが分かる。また、現地の通識教育部の副部長へのインタビュー調査からの結果によれば、博雅学院の古典を中心としたカリキュラムは、米国コロンビア大学の一般教育「**古典名著**」方式であることが考えられる。

## ② 学生の規模

学生の規模について、博雅学院は毎年大学内部において、各学部の新入生の中から**30名**の学生を選抜している。そして、博雅学院の1年生から4年生の学生数は120人となる。また、学生の選抜について、学生は博雅学院の募集のお知らせに基づき、正式に申し込んで、博雅学院の面接を通じて、博雅学院へ入っている。その際に、元合格した学部と専攻には所属しなくなる。1年生から2年生まで、専攻を区別せずに、3年生から始めて好きな専攻を自由に選択できる。また、卒業論文の方向は人文・社会科学分野である。学生も寮において異なる専門の学友間の交流と学習の機会が与えられている。

ここで注意することは、この学生数の面で博雅学院において、すべての学生を対象とせず、少人数の学生を対象として、実験的にエリート教育の方式を採用していることがわかる。

## (3) 西安交通大学書院の事例

西安交通大学は約30,000人の学生が在籍している（2014年の現在）。近年、教育モデルを知識伝授型から探求研究型に転じることを目指し、通識教育、科学研究能力と革新能力に基づく「2+4+X」<sup>(25)</sup> という研究型人材育成モードを推進している。西安交通大学では、2006年から2013年にかけて、8つの書院が設立されている。本節では、教育課程と学生の側面から、その特徴を明らかにしていく。

### ① 教育課程：教育活動

書院の教育課程として、「公開講座」、「体育活動」、「社会的実践活動」、「バケーション活動」などの教育活動がある。

#### a 公開講座・講演会

蘇（2010）は、西安交通大学の書院での講演会について以下のように紹介している。書院は、大学内外の著名な教授を招き、学術の講座・講演会を開催している。これらの講演の内容は人文科学、社会科学、自然科学の複数の領域を含めている。講演会や講座は、学生の幅広い分野の知識と倫理的な思考力に役に立ち、または理論の学習、科学の提唱と進歩の追求を行う雰囲気を作り出し、理論と実践を統合する能力と総合的な知識の応用力とイノベーション能力を身につけさせることを目標としている。



## b 体育活動

朝の運動制度（原語：早操制度）と各体育活動は、学生に良好な生活習慣（勉強と休息の良いバランス）を身につけさせるために行われている。また、このような体育活動は学生の身体素質を高め、集団的な意識や協調性を増強させることを目的としている。一般的には、書院は毎週2回の集団での朝の運動制度を行って、全体常任・兼務補導員と学生が共に訓練を行っている。これ以外にも、書院は様々な体育試合を組織し、例えば、バスケットボール、バドミントン、サッカー、卓球や競走の試合などを行っている。

## c 社会的実践活動

書院は学生が社会に出て積極的に実践的に活動することを奨励している。その理由としては、社会活動を通じて、学生が実践的に国情を理解し、社会に貢献するための問題発見・解決能力を開発することができると考えられているためである。そこで、夏休みの間に約30%の学生が社会的実践活動を参加し、自発的にこの実践活動の内容を報告している。例えば、2013年4月23日の午後、第15回の咸陽への奉仕活動は「幸福を祈る雅安」を主題とし、咸陽市特別支援教育学校で行われた。この活動は西安交通大学彭康書院の「学生会」が主催し、彭康書院から70名のボランティアが参加した。

## d バケーション活動

書院はバケーション（冬休みや夏休み）の際に、学生に1つの任務を与え、つまり毎年学生の両親に手紙を書き、書院での活動を報告することである。例えば、一般的には中国人にとって、学生は両親との交流が乏しく、両親への感謝の気持ちを表現することは得意ではないため、両親へ感謝する活動が展開され、新入生に親孝行が提唱されている。

このような各種の教育活動を中心にした大学教育カリキュラムの取り組みは、米国の一般教育「生活体験」モデルに該当すると言える。

## ② 学生の規模

現在、例えば、彭康書院では理学院、能動学院、情報工学院、外国語学院という4つの学院から構成され、約3000名の学生を有している。故に、理系、工学系、文系からさまざまな分野の交流と融合により、学生に幅広い知識と成長のスペースを提供している。この8つの書院は、3～13個の異なる学院から学生は同じ書院で生活している。

ここで注意することは、学生数の面で書院は、元培学院や博雅学院と異なって、すべての新入生を対象としていることがいえる。

#### 4. 総合的な比較考察に基づく通識教育モデルの模索

本節では、前述のように北京大学、中山大学、西安交通大学の事例について、それぞれの教育課程と学生規模の面を考察し、本節では、これらをふまえ、3大学の事例間の総合的比較分析を通じて、通識教育のモデルを模索していく。

表3の通りに、上述した米国式の一般教育モデルと中国の3大学の事例をさらにクロスさせ、教育課程（古典名著／コア・カリキュラム／生活体験）と学生の規模（小規模／大規模）の観点、という2つの分析軸加えることによって、中国の大学の通識教育のモデルを以下の6つの類型にまとめることができた。

類型Ⅰ 古典名著—小規模（エリート実験）モデル…中山大学

類型Ⅱ 古典名著—大規模（初年次全学）モデル

類型Ⅲ コア・カリキュラム—小規模（エリート実験）モデル…北京大学

類型Ⅳ コア・カリキュラム—大規模（初年次全学）モデル

類型Ⅴ 生活体験—小規模（エリート実験）モデル

類型Ⅵ 生活体験—大規模（初年次全学）モデル…西安交通大学

表3 3大学の事例間の総合的比較分析表

	北京大学 元培学院	中山大学 博雅学院	西安交通大学 書院
米国一般教育 モデルとの対照	コア・カリキュラムモデル	古典名著モデル	生活体験モデル
教育課程	6領域の通識選択科目：数学・自然科学、社会科学、哲学と心理学、歴史学、言語学・文学・芸術学、持続的な社会発展  学際的な分野：古生物学（生命科学、地球科学及び環境科学を含む学際的な学問）、政治学・経済学・哲学（政治学、経済学及び哲学から成る学際的な学問）、外国語・外国史（外国語学と歴史学から成る学際的な学問）	古典の学習： 古代中国、古代ギリシャ語、ラテン語、英語、中国文明と西洋文明のコース	教育活動： 公開講座、体育活動、社会的実践活動、パケーション活動
学生の規模	毎年約80～150名（エリート）	毎年約30名（エリート）	毎年約3000名（新入生全員）（全学共通の）

出典：筆者作成。

この6類型を中国の他の重点大学にもあてはめてみると以下のような分類になることが明らかになってきた。例えば、北京大学の元培学院（2001年）、南京大学の匡亚明学院（2006年）、北京師範大学の励耘学院（2010年）、南開大学の泰達学院（2000年）などが類型Ⅲコア・カリキュラム—小規模モデルに属しているが、復旦大学の復旦学院（2005年）、清華大学、中国人民大学、同済大学などが類型Ⅳコア・カリキュラム—大規模モデルに属しているといえる。また、西安交通大学の書院制度（2006年）などが類型Ⅵ生活体験—大規模モデルに属するといえよう。中山大学の博雅学院（2007年）が類型Ⅰ古典名著—小規模モデルに属していることがわかる。

このような通識教育6モデルの研究は、中国と日本や他のアジア諸国の一般教育の改革について、重要な示唆を提供しているものと考えられる。馬越（1995）によると、アジア諸国の大学は、近代から現代まで、西洋大学モデルを移植しており、また多くの大学は複数の大学モデルを同時並行的に導入したことが指摘されている<sup>(26)</sup>。本研究では、米国の一般教育3モデルと対照しながら、中国の大学の教育制度の通識教育の問題に着目し、通識教育6モデルの分析を行った。この結果、類型Ⅰの古典名著—小規模（エリート実験）モデルは中山大学で実施され、古典名著モデルは小規模のエリート教育での実施が試されていることがわかった。また、北京大学では類型Ⅲのコア・カリキュラムモデルがやはり同じように小規模（エリート実験）モデルとして実施されている。小規模である要因には、古典名著やコア・カリキュラムはその内容面から、中国の「教養」観、人材観との相違が危惧されることから、全学規模のものではなく、少人数の、しかも「実験的」な位置づけとなっていることが考えられる。また、中山大学は大学院での専門教育と学部での教養教育が体系化されているため、学部期間での教養教育の期間が北京大学より1年多い3年間である。これが中山大学と北京大学のカリキュラムモデルの相違を生む一つの理由となっていると思われる。

一方、西安交通大学で見た類型Ⅵの生活体験モデルは全学生に、初年次に提供され、米国のみならず、近年日本の取り組みにも類似した傾向があることが分かる。生活体験というカリキュラムは学生のニーズと実施可能性の高さから、西安交通大学で導入されたと考えられる。

## 5. おわりに

本論では、米国の一般教育の理念を整理し、そして中国の通識教育改革の実態を考察しつつあり、北京大学の元培学院、中山大学の博雅学院、西安交通大学の書院の事例を取り上げ、それぞれの通識教育改革の状況と特徴を考察したうえで、6つの通識教育モデルを類型した。これらを踏まえ、いくつかの結論と特徴、またはそれぞれの通識教育カリキュラムに関する相違点と共通点がまとめられる。

第1に、通識教育の対象者については、まず大規模の学生と少人数の学生2つの種類に分けられる。西安交通大学の書院では約3000人という大規模の学生に対する通識教育を実施している一方で、北京大学の元培学院（約80～150名）と中山大学の博雅学院（約30名）の学生数は少ない。また、北京大学の元培学院と西安交通大学の書院の学生は文系と理系に分けられているが、中山大学の博雅

学院の学生は文系のみ所属していることが明らかとなった。

第2に、カリキュラムについては、北京大学の元培学院は人文科学・社会科学・自然科学から構成されている正式な通識教育カリキュラムが重視されているが、西安交通大学の書院に関しては、社会实践活动の非正式な通識教育カリキュラムが重視されている。また、中山大学の博雅学院では古代中国、古代ギリシャ語などの古典的な知識を学び、特色ある通識教育カリキュラムが実施されていることがわかる。

最後に、本論の課題を提示する。現在21世紀の中国では、米国の20世紀70年代からのコア・カリキュラムを模倣し、通識選択科目を開発し、学生に幅広く知識や技能を提供するカリキュラム改革を行っている。しかし、ハーバードで2004年学士課程カリキュラムの報告書(A Report on the Harvard College Curricular Review)<sup>(27)</sup>で示されたように、教員にとっても学生にとっても、時間がたつにつれコア・プログラムに対する熱意が冷めていくことが懸念される。これについて、現在の中国の通識教育カリキュラム改革は、米国のコア・カリキュラムへの問題点と不満なところも注意しなければならない。この通識教育の評価の問題は今後の課題としたい。

#### <注>

- (1) ZHANG Donghui (2012) 'Tongshi education reform in a Chinese university: knowledge, values, and organizational changes' *Comparative Education* vol.56, No.3 pp.394-420.
- (2) 李曼麗 (1999) 『通識教育——一つの大学教育観』 清華大学出版社。
- (3) 楊嵐 (2006) 「中国の高等教育改革における教養教育の変容：市場化への対応に焦点をあてて」『教育学論集』 2、123-143頁。
- (4) 陳欣 (2003) 「教養教育の復興：1990年代以降の中国における学士課程カリキュラムの改革」『大学教育学会誌』 第25巻、第2号、96-10頁。
- (5) 黄海嘯 (2010) 「中国大学教学的人本回歸——問于人性、知識、課程、課堂與大学教育的思考」『大学教育』 (7)、1-9頁。
- (6) 史媛媛 (2013) 「中国の大学における教養教育の位置づけ」『国際教育文化研究』 第13巻、137-147頁。
- (7) 楊瞳 (2012) 「中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム——3大学の事例比較——」『大学経営政策研究』 第3号、117-138頁。
- (8) CHEN Xiangming (2011) 「General Education Reform and Its Implications for Student Learning: The Case of Yuanpei Program of Peking University in China」『名古屋高等教育研究』 第11巻、pp.231-252。
- (9) ZHANG Donghui (2012) 'Tongshi education reform in a Chinese university: knowledge, values, and organizational changes' *Comparative Education* vol.56, No.3 pp.394-420.
- (10) 一般教育学会編 (1997) 『大学教育の研究の課題：改革動向への批判と提言』 玉川出版社。

- (11) 名古屋大学高等教育研究センター (2006) 『大学における教養教育カリキュラムの比較研究』。
- (12) 有本章編 (2003) 『大学のカリキュラム』 玉川大学出版。
- (13) 吉田文 (1999) 「アメリカにおける一般教育の構造——幅広さと一貫性のパラドックス」『大学論集』第30集、141-55頁と吉田文 (2005) 「アメリカの学士課程カリキュラムの構造と機能——日本との比較分析の視点から——」『高等教育研究』第8集、71-93頁。
- (14) 鳥居朋子 (2006) 「ハーバード大学における学士課程教育カリキュラム」『大学における教養教育カリキュラムの比較研究』名古屋大学高等教育研究センター、135-167頁。
- (15) 深野政一 (2008) 「ハーバードのカリキュラム改革——5年間の軌迹」『大学教育学会誌』第30巻 (1)、96-102頁。
- (16) 江原武一 (2010) 『転換期日本の大学改革——アメリカとの比較——』 東新堂出版社。
- (17) 大塚豊 (2004) 「第1章中国 大衆化の実現と知の拠点形成」馬越徹編『アジア・オセアニアの高等教育』玉川大学出版部。
- (18) CHEN Xiangming (2011) 「General Education Reform and Its Implications for Student Learning : The Case of Yuanpei Program of Peking University in China」『名古屋高等教育研究』第11巻、pp.231-252。
- (19) 熊思東 (2010) 『通識教育と大学：中国の探索』科学出版社。
- (20) 扇谷尚 (1962) 「アメリカの大学における一般教育」『IDE教育資料』第23集。
- (21) 一般教育学会編 (1997) 『大学教育の研究の課題：改革動向への批判と提言』玉川出版社、295-298頁。
- (22) 清水畏三 (1980) 「“大学大衆化”時代における一般教育の使命——ハーバード改革」一般教育学会編1997『大学教育の研究の課題：改革動向への批判と提言』玉川出版社、71-80頁。
- (23) Robert R. Newton, 2000, Tensions and Modles in General Education Planing, The Journal of General Education, Vol.49, No.3, pp.165-181。
- (24) 北京大学教務部は2011年に公布された「北京大学通識選択科目総目録」から参照。
- (25) この「2+4+X」のうち、「2」とは、学部の第1、2学年を指しており、学生を専門によって分けることをせず、人文社会科学、自然科学および通識科目を強化する。また「4」とは、第3、4年と修士の2年間を連携した養成プランに相当する。「X」とは博士課程段階であり、学制年限などの画一的な処理を行わない。
- (26) 馬越徹 (1995) 『韓国近代大学の成立と展望』名古屋大学出版会。
- (27) 深野政一 (2008) 「ハーバードのカリキュラム改革——5年間の軌迹」『大学教育学会誌』第30巻 (1)、96-102頁。

## **A Study of Models in General Education of Universities in China**

**Yuanyuan SHI**

The purpose of this paper is to examine the models of general education reform in Chinese universities through a case study of Peking University, Sun Yat-sen University and Xi'an Jiao Tong University.

In China, the term of ‘Tongshi’ (通識) education (the Chinese variant of ‘general education’) which are courses that requires all of its college or university students to pass as a condition for graduation. Recently, a number of China’s key universities have initiated reforms in general education curriculum as well as the institutions.

First of all, this paper reveals the main three ideals of general education models in Americas’ university. Because of that now the china’s university has been borrowed from Americas’ general education models. And the America general models including Great Books Model, the Core Curriculum Model and Life-Experienced Model.

Secondly, through a case study of three universities of Peking University, Sun Yat-sen University and Xi'an Jiao Tong University, to investigate the practice of the general education reform in China. Especially from the perspectives of the contents of curriculum and students scale, to analysis the characteristics and role play of ‘Yuanpei College’ in Peking University, ‘Boya College’ in Sun Yat-sen University, and also the system of ‘ShuYuan’ (residential college) in Xi'an Jiao Tong University.

Finally, based on the above three universities’ cases, this paper selects the view of the contents of general education curriculum (classic great book / core curriculum / life experience) and the students scale (small / large) to set the six models of general education reform as follows: Types I ‘classic great books-small scale model’, Type II ‘classic great book-large scale model’, Type III ‘core curriculum-small scale model’, Type IV ‘core curriculum-large scale model’, Type V ‘life experience-small scale model’ and Type VI ‘life experience-large scale model’.